

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

ことう地域チームケア研究会 たより

令和5年11月30日発行

つながろう 話そう

ハイブリッドde 研究会

第64回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

◆開催日時: 令和5年11月9日(木) 18:30~20:30

◆参加者: 96名(医療関係 52名、福祉関係 31名、行政・その他 13名)

「看取り」 特別養護老人ホームでの終末期支援より

【担当世話人団体】 彦根医師会 / 彦根愛知犬上介護保険事業者協議会

☆今回は「看取り」をテーマに、湖東圏域での看取りに関する概況や特別養護老人ホームでの実践を共有し、感想を出し合う中で相互理解を深めることができました。

☆また、今後、それぞれの立場や支援チームとしてどのようなことができるのか、地域の課題は何かなど活発な意見交換が行われ、「看取り」の場面のみを切り取るのではなく、日々の暮らしを大切にしたい関わりの延長線上にある看取りということについて考える機会となりました。

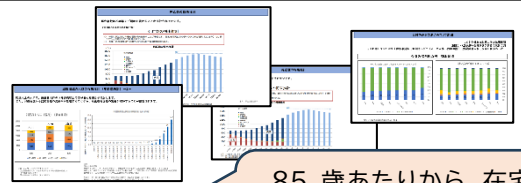


【情報提供】「湖東圏域の看取りに関する概況について」

湖東健康福祉事務所

県民への意識調査や死亡統計等の看取りに関わるデータ、施設等における「看取りと介護の現状と課題」の調査等より

☆湖東圏域の人口動態や看取りに関する様々なデータから、湖東圏域の現状について解説をしていただきました。
☆下記に「まとめ」の部分のみ紹介します。



湖東圏域の人口の推計について

死亡者数および在宅医療需要（施設含む）の増加。
⇒ 施設での看取りの需要も増加していく見込み。

85歳あたりから、在宅訪問診療を必要とする方の割合が急増している。

住民の思いについて

- ・看取りを受ける場所：自宅を望まれる方が多い。（次点：病院）ただし、「わからない」方が1/4程度おられる。
- ・看取り時の希望：家族に囲まれることや苦痛がない事を望む方が多い。

自分がどうしたいのか「わからない」と回答する人が多い。

実際の最期の場所について

- ・施設（老人保健施設および老人ホーム等）で最期をむかえる方が増加傾向。
- ・湖東圏域の自宅死亡の割合は低い値だが、施設を含めた割合は県内でも高い値となる。
- ・最期として望む場所に自宅を選ぶ方が多いが、実際の死亡場所の割合とは差がある。

県民の思いに対し、現実では病院や施設での死亡が多く、自宅が少ない。

施設における看取りと介護の現状について

- ・湖東圏域の施設では、施設看取りを望まれた場合、原則施設で看取ると回答する施設が増加傾向
- ・湖東圏域の施設では、看取りを実施している施設が増加傾向
- ・課題としては、人の死に直面する職員の精神面や本人の意思確認が不十分であると回答される施設が多い。また、痛みのコントロールの難しさを課題とする施設が増加傾向。
- ・可能な医療処置としては、滋賀県と比較し人口肛門や末梢点滴の管理ができる施設の割合が高い一方、インスリン注射や喀痰吸引等割合の低い処置が、その他を除いて13項目ある。

「施設での看取りに関して大切にしていること」については、
①本人の尊厳や生活の質
②家族との関係
③チームケア、等の意見が多い。

【話題提供】「特別養護老人ホームでの終末期支援」～支援事例の紹介～

「好きなものを好きなときに食べたい」 思いをチームで支える

社福)日野友愛会 千松の郷 (彦根市) 田中 智也さん



「食べること」への支援

拒食の人にはどのようにアプローチされていますか。

皆さんの特養の看取りのイメージはどうでしょうか？決まったものを食べなければならないなどのイメージはありませんか？

F 様への支援

食事を楽しく 食べたいときに 食べたいものを

時間に関係なく、家族の手料理や、嗜好品、栄養補助食品を提供



食事を楽しく頂く

☆嗜好品+栄養補助食品を使用する！

家族様と協力

☆F様の好きだったものを手料理で持ってきてもらう！

アプローチ

心のケア

☆日々の関わりを大切に！

多職種連携

☆医師・NS・栄養士・歯科衛生士・スタッフ等連携！

家族とのかかわり

- ・F 様に関係する生活歴 (好きな食べもの、趣味等)

食べるためのお口のケア

- ・歯科衛生士の口腔ケア指導

術後のケア・慢性疾患の管理

- ・主治医、看護師、栄養士と連携し全身状態の管理、悪化予防・改善。

安楽な環境調整

- ・褥瘡予防オスカー (自動体交マットレス)
 - ・ポジショニング、シーティング
- ⇒安楽な姿勢は睡眠、食欲向上にも繋がる。

心のケア

- ・細目に訪室
- ・居室内に写真を飾る
- ・好きな歌、音楽を流す
- ・行事やアロママツアージュ、手浴・足浴実施

「安心・安全な看取り介護へのとくみ」

社福)達真会 多賀清流の里 (多賀町) 樋口 衣里子さん



看取り介護で大切にしていること

- ①本人、家族の意向
- ②不安の軽減(本人、他利用者さん)
- ③不安の軽減(職員)



悲しいけれど温かなお見送り

看取り介護で避けたい事例

①誤嚥性肺炎

- ・食事形態の見直し
- ・介助中止のタイミングを統一
- ・ポジショニング
- ・口腔ケア(訪問歯科連携)

②褥瘡

- ・体位交換・ポジショニング
- ・適切なパットサイズの見直し

☆本人、家族の意向

◎入所時点で、要介護3以上の方が多く、もしもの時の対応や延命治療に関すること等、本人から思いを聞くことは難しい。

◎家族から聞き取るも、いざとなると迷われることも多い。

↓
ご家族が迷ったり、後で後悔したりすることが少なくなるように…

⇒お元気な頃から、どう過ごしたいかなどご本人と話し合っておく (例えば在宅でケアマネジャーさんと一緒にご家族も交えて話をする機会を持って、入所の時にもその話を引き継いでいけるようにできるとよい)

みんなでお見送り(利用者さんの声)

「死ぬのは怖い。怖いけどこんなに穏やかに死ねたらいいな、ほんでみんなにこうやって大切に見送ってもらえるんやね。あんたら頼むわね。」

☆不安の軽減

<ご本人・他の利用者様>

- ◎「孤独にならないように」
- ・家族、利用者、他部署職員が面会できるようにする。
- ・みんなでお見送りをする。

<職員>

- ・ICTの導入(インカム・見守り機等)
- ・看取り研修の実施

看護職・介護職・リハビリ職・栄養士・歯科など、様々な職種が専門性を発揮し、連携をしながら実践しています。

【話題提供】「特別養護老人ホームでの終末期支援」～医療の立場から～

☆施設の嘱託医をされている中西先生と横野先生からコメントをいただきました。



彦根医師会
中西医院 中西正喜氏

- ◆ご飯が食べられなくなったら点滴を、ということになることもあるが、管理栄養士や歯科衛生士らも関わり「食べる」ことへの支援を続けることができよかったですと思う。
- ◆施設のスタッフ間の関係性が良く、看護師、介護職、栄養士、歯科衛生士など、多職種がうまくチームで支援をしている。このような支援チームだからこそ看取りにうまく対応できていると思うし、医師としても安心している。
- ◆看取りへの対応については、私の場合は、夜中に亡くなられた時は21時から翌朝6時までには施設で対応をしてもらい、朝訪問するようにしている。
- ◆新しい職員が看取りに対応するのは厳しいと思うが、経験を重ねることによってできるようになると思うので、これからも頑張ってほしい。

- ◆施設に診察に行くが、日常どういう生活をしているかを見る機会があまりなかった。今回、2施設からの発表を聞いて、大変感銘を受けた。施設の皆さんの日頃の工夫や努力が良く分かった。今回の報告のように、看取りは在宅あるいは施設でできるとよいと思っている。
- ◆施設やサービス付き高齢者住宅に関わっていて思うことは、家族に看取りの同意を取るときのタイミングが難しいということ。入居して間もない方でも急に悪くなる方もある。入居早々に看取りの話を持ち出すことは、まだ関係性もできていない中、家族の心情面も考えると難しいと感じる。家族とのコミュニケーションを重ねながら、医師や看護師から看取りの話を持ち出せるとよいと思う。
- ◆統計データから見ると彦根市は在宅での看取りが少ない状況であるということについて、在宅に対応できる医師が少ないということも問題点ではないかと感じている。



彦根医師会
横野医院 横野智信氏

グループワーク&全体会・質疑応答

10グループに分かれて、情報交換、意見交換を行いました。

- ★ 情報提供・話題提供を聞いて、「感じたこと、印象に残ったこと」、「もう少し知りたいこと」、「終末期や看取りにかかわる中で大事にしたいと思うこと」等

「施設での実践を知ることができた。素晴らしいと思った。」
「施設での取り組みをもっと地域の人(家族)に知ってもらいたい。」
「施設だからこそできる支援をもっとアピールしないといけないと思った。」
「看取りの時だから特別にするのではない。日々のケア・連携が大事である。」
「本人や家族の思いを大切に支援することが大事である。」

「ACP・人生会議」について

- ◎会話を重ねてどんな最期を迎えたいか本人や家族と一緒に考えることが大事
- ◎職員の研修が必要
- ◎本人の意向をどう聞き取る？
- ◎「ちょこっと ACP」の取り組みを実施
- ◎ACP「人生会議」がもっと住民に広まって、浸透していくとよいと思う。
- ◎住民にもわかりやすく、くわしく伝えていけるとよい。どうしたらいいかな？
等々、ACP についていろいろな意見が出されました。

<湖東地域のめざす姿>

『住民が、住みなれた場所で安心して暮らし続けることができる』

☆本人の思いに添った終末期の支援、そして看取りとは…。

研究会を通して、在宅でも施設でも、どんな場所でも暮らしの中に安心や居心地の良さがあって、最期に「いい人生やったね」と皆でいえるとよいなと思いました。



最後に、話題提供者(施設)より

- ◎看取りだからということではなく、日々の支援の中で多職種の連携を当たり前にとることを大切にしている。
- ◎医療と切り離せないのが看取り。どうしても看護師に頼る部分は大きいですが、負担が大きくなる。そこは多職種連携で支援しながら細かな情報共有をし最後まで支えていけるようにしたい。

- ◆湖東圏域では近年特養の待機者数が減少している。医療的なケアに目線を広げて受け入れ体制を検討する必要がある。そのためには、より看護師との連携について深く議論していかなければならないと思っている。



<第64回アンケートより一部抜粋>



こんなこと思いました

1. 情報提供「湖東圏域の看取りに関する概況について」の感想、印象に残ったこと。

医師	地域ごとの統計で、地域における実際の病院数、施設数に差がありその影響もあると考えました。
介護支援専門員	施設で最期を迎える方が増えていること、また湖東圏域では自宅での看取りの割合は低いが施設を含めると平均を上回る高い件数になっていることが印象的でした。施設も最期を迎える場の一つになってきていることが現実的になってきていると感じました。このような状況であることをご利用者様やご家族様にも情報提供していき、家族間での話がしやすくなるようになればと感じました。
看護師	湖東地域では在宅での看取りは低いこと、施設での看取りが増えてきていることがわかりました。施設での看取りが増えてきていますが、課題も明確になり、今後は 24 時間医療的なケアが必要な時にどのように対応したら良いかを検討できると良いと思いました。

2. 話題提供「特別養護老人ホームでの看取り」の感想、印象に残ったこと。

医師	入居者のことを考え、思いにこたえる姿勢に感銘を受けました。
看護師	施設での看取り、普段からのケアはとても丁寧に実施されていることを知りました。他職種での連携もできていて良いと思いました。高齢者の意思決定支援の難しさも感じましたし、普段からの会話の中から聞いていく必要があると思いました。
看護師	事例報告では素晴らしい取組みを聞かせて頂いた。施設の中で多職種連携が出来ていたことが素晴らしいと思った。多賀清流の里の事例で食事ケアの終わりのタイミングを統一されたことが誤嚥性肺炎の防止に実際つながったことは私の施設でも活用できると感じた。最後のお見送りを施設の利用者も一緒にお見送りする事で自分もこんな風にしてもらえるという安心感に繋がるという点は施設だからこそできる事だなと感じました。
看護師	とても素晴らしい。実際の取り組み内容を知ることができてとてもよかった
MSW	その日の気分によって温度を変えるなどきめ細かい対応に感銘した
MSW	病院から看取りで施設へ退院した人がその後どういう生活をされているのか、なかなかイメージができなかったが、発表を聞いて施設での取り組みがイメージできた。
理学療法士	いろいろな工夫をされているのがよくわかりました。
介護職	同じようなケアができていたので自信になった。おむつパットの見直しをホーム内でも検討したいと思った。
社会福祉士	施設での取り組み、食事ケアがとても丁寧に取組まれていると感銘を受けました

3. グループワークや全体会での他職種との意見交換について、感想、印象に残ったことなど。

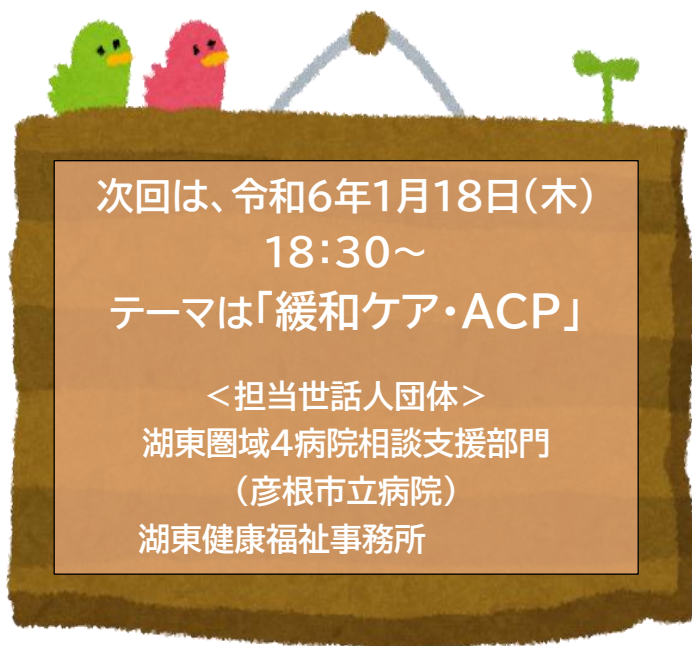
医師	看取りを医療関係者だけでなく一般の方にもわかりやすく説明できる絵本の存在が知れてよかったです。施設での看取りが増えてきている現状が知れてよかったです。
医師	他職種とお話することで考え方が広がります。こういった機会をいただきありがとうございます。
訪問看護ステーション	それぞれの職種の専門性での視点での意見は参考になりました。会場久しぶりに参加させていただき、顔の見える関係での意見交換は活発でよかったです。
看護師	施設や在宅でもチーム医療が活発に行われていることを知り、チーム医療の大切さを感じた
MSW	ちょこっと ACP、家族の覚悟、施設をもっとアピールを

介護支援専門員	今回のように看取りの研修、話をお聞きすると増々ACPの重要性を感じます。最期の最後では本人様の意思決定を確認するには難しいと思われれます。そのためそのタイミング、いつ確認をすればよいのか悩みます。しかし、お元気なうちに、意思表示がしっかりできるうちに確認する必要があるかと思えますので今回絵本のご紹介がありましたのでこの絵本を参考にして話のきっかけにしていきたいと思いました。
介護支援専門員	病院の看護師さんから施設から運ばれてきた患者の見方を聞くことができよかったです
福祉用具専門相談員	他職種からの視点と取り組みと意見を伺うことができ有意義だった

4. 研究会全般についての意見、要望など

医師	看取ることを続けようかと少し思っています
医師	こんなに集まるとはびっくりしました
看護師	現地での参加者が少しずつ増えて嬉しいです。
看護師	あらゆる他職種が顔を合わせられる貴重な研究会だと思うし、また参加させて欲しいと思いました。
MSW	金曜日の開催は難しいのでしょうか
主任ケアマネ	久しぶりに会場参加しました。多くの方と顔を合わせて交流ができてよかったです。事務局様ご苦労様です。

ご意見、ご感想ありがとうございました。



次回は、令和6年1月18日(木)
18:30~
テーマは「緩和ケア・ACP」

<担当世話人団体>
湖東圏域4病院相談支援部門
(彦根市立病院)
湖東健康福祉事務所

ホームページ「在宅医療福祉情報の森」で次回研究会の情報・過去の開催内容をご覧ください。

在宅医療福祉情報の森



で検索。



「サイ五郎さんちの人生会議」の絵本をご存じでしょうか？
この絵本を活用して「人生会議」を体験してみたいと思います！



【研究会に関するお問い合わせ】 ことう地域チームケア研究会事務局

- ◆ 一社)彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 TEL 49-2455 E-mail:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)
- ◆ 彦根市高齢福祉推進課 (くすのきセンター) TEL 24-0828